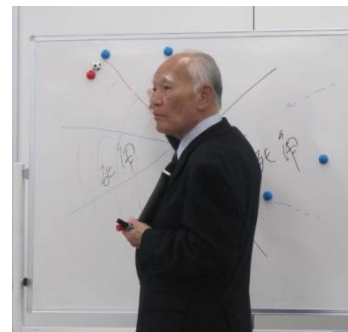




第33回 関西学生サッカーセミナー

『指導とは・サッカー戦術について』



大阪商業大学 上田亮三郎 総監督（以下、上田先生）を 阪南大学あべのハルカスキャンパス にお招きし、「指導とは・サッカー戦術について」の講演をして頂きました。

初めに、上田先生がデットマール・クラマー氏との出会いを受けて作成した技術についての図についての説明がされました。

一技術は、体力・感性・精神力の頂点に位置づくものである。

また、この体力・感性・精神力を支える土台というものが戦術と人間性である。

戦術というのは難しいものではなく、「判断・考え方・取組み方」という三つの要素であり、良い人間性というものは、よく気がつく人・労をいとわぬ人・勇気ある人であること。

さらに、思いやり・協調性・責任感あることである。

この全ての要素をバランスよく伸ばしていくことが求められる—
という解説がされました。

次に、良い選手・良いプレー・良い試合・良いチーム作りに大事なことについての説明がされました。「良い選手・良いプレー・良い試合・良いチーム作り」に必要なものは、「**Fighting Power=力強さ**」と「**Playing Art=美しさ**」のバランスが大切。「**Fighting Power=力強さ**」が強すぎると、汚いプレーが起こってしまう。そのため、それを抑制するために「**Playing Art=美しさ**」が必要。

また、「個人戦術」と「集団戦術」についても解説がされました。

◎個人戦術

→「何時」「どこで」「何を」「誰が」「どうする」という考え方が基盤

例)「パス&ゴール」・「メイク&スペース」・「ゴール&ゴール」

◎集団戦術 (①グループ戦術・②チーム戦術)

①グループ戦術

→チーム戦術より先にしなければならないことであり、グループでの決まりごと

②チーム戦術

→チーム全体での決まりごと

例) 4-3-3 といったようなシステム

「多くのチームがシステムについて大きな間違いをしている。システムに選手を当てはめるのではなく、システムは個人の特徴を活かすものであり、欠点を補うものである。システムありきではなく、選手にあったシステムの採用が求められる。」との説明がされました。

さらに攻撃の原則・守備の原則についても解説がされました。

◎攻撃の原則

①幅 ②厚み ③可動性 ④意外性 ⑤突破

→意外性が大切である。意外性＝変化

→テンポや距離、速度などに変化を加えパターン化されないことが大切

Q：発問…技術があるのに、なぜ勝てないのか？

A：意外性の欠如が関係する。意外性のある攻撃は相手に攻撃の手を読み取られない。

◎守備の原則

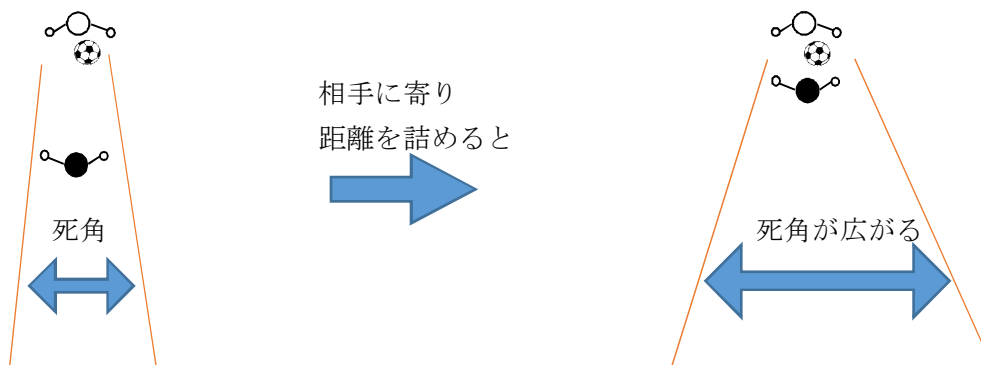
①遅延 ②集中 ③バランス ④深み ⑤規制（コントロール）

Q：発問…守るとは？

A：距離を詰め、守る範囲を増やすことである。死角が生まれるように守る。

死角とは・・・？

→1人が守れるスペースのこと。死角には直線的にはボールを出すことができない。



→距離を詰めることによって、死角が大きくなる。守備では距離を詰めることが大切になる。

→サンドをすることによって、死角を生み出しサポートしている選手にパスを出せなくする。

死角にいる選手にはパスを受けることはできない。

☆攻撃の原則・守備の原則を徹底することは非常に大切なことである。

例) 柔道の猪熊さんの話、大相撲の若乃花関・貴乃花関の話

→相手の力を利用して攻めるという原則

最後に、チームづくりについての話がされました。

上田先生が指導をする上で最も大切にしていることは、「言葉」。

例) NHKの「かんさい土曜ほっとタイム」のアナウンサーの話(面白いしゃべりが引きつける)

◎八尾の軍鶏の調教師からの指導の教え

①目線

- ・上からの目線で伝える時
→厳しく、大切なことを伝える時 例) 教壇の上から伝える
- ・下からの目線で伝える時
→説得をする時
- ・同じ目線で伝える時
→納得しているかを確認する時

②語調

語調を変化させることで、相手への伝わり方が変わる

※クラマー氏からも同じような内容を学んだ。読書でも学べるが、人から聞く話の中に大事なヒントが多い。人との出会いで学ぶことが多い。

◎指導者に大切なことは

日本にサッカーの火をつけた方々の話

(専門競技がサッカーではなく他競技の指導者が活躍。個性的なすぐれた方々が多く存在。)

→この方々に共通するものは…

- ・言葉を大切にし、話が上手い
- ・人の話をよく聞く
→良い選手であればあるほど人の話を聞きにくいですが専門競技でないので、他人の話をまず聞く
良い選手は自分の感覚や経験があるので、人の話を聞きにくい傾向がある
- ・好奇心・探究心・謙虚さ
→素人や下手であるからこそ、人の話を聞くしかない

◎個性ある個の育成と組織化が、即ちチームづくりである

- ・個性ある個の育成について→人には違った良さが必ずある

例) 大商大時代の松永英機さんの話

体が小さいが判断が早い、ものすごく機転が利く

→選手からの信頼が厚く、発言に浸透性がある

例) 大商大時代の高木琢也さんの話

恵まれた体格だが、動きが鈍い

→身長が高くプレー範囲が圧倒的に広く、滞空時間がある

・個性ある個の育成には…

指導は欲張らない。一つ一つ段階を踏んだ指導をすることが大切である。

毎年1つのことができるようになれば、4年で4つのことができる。全てを求め過ぎない。


(まとめて伝えると逆に時間がかかる)

①分析と課題の把握 (準備の部分)

イ) 立場の分析 例) 監督・コーチ・どのレベルのチームを教えるのか→自身の立場の把握

ロ) 素材の分析 例) チームの課題・選手の課題・能力など

ハ) 状況の分析 例) 日々の状況を感じる事など



スカウティング

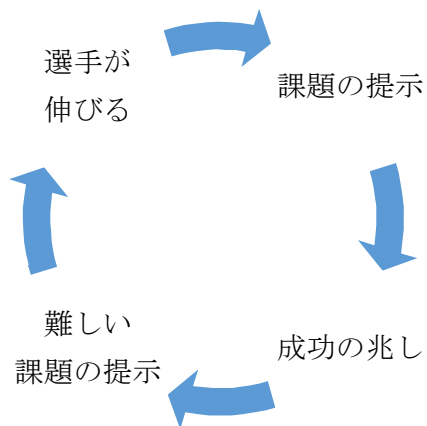
◎スカウティングとは…

- ・選手の本質 (長所・短所・性格) を見抜くこと
- ・選手の可能性を見抜くこと

→指導をする上で、スカウティングが最も大切であるとクラマー氏より学んだ。

②指導とは何か…

- ・悪い習慣を取り除いて、良い習慣をつけること ≠ 教える・教わる
- ・指導者－選手との競争関係 (指導のサイクル)



難しい課題の提示とは

* もう少しで成功できそうな課題

1) 素材（選手）側の課題（選手を見るポイント）

- イ) 簡単なことわずかなことを大切にする（積み重ねが大切）
- ロ) 感謝の気持ちを常に持つ（これにより頑張れる）
- ハ) 自己評価は絶対に許さない（評価は、指導者・仲間・サポーターがするもの）
- ニ) 人間の価値は、苦しい時に何ができるかできか

上記の4項目が選手を頑張らせる上で、上田先生が特に気を付けていたポイント。

2) 指導者側に必要なもの

- イ) 情熱
- ロ) 周りの人が魅力を感じるかどうか（きつい面・面白い面を併せ持つ）
→辛さを出すには、甘さがある。また、甘さを感じるには辛さがある。
ここに人間的魅力が生まれる
- ハ) 不可能に立ち向かう強い心
- ニ) 一貫性があるか（信念があるかどうか）
- ホ) 勇気と決断力があるかどうか

【指導上の鉄則】

- ①焦らず、欲張らず
- ②周りから慕われる姿勢
- ③やらかなあかんことは、やらかなあかん（＝信念。→言い訳はいらない）
- ④結果を問わなければならない（自分にも。選手にも）
→褒める時は褒める・叱る時は叱る
- ⑤情熱と愛情のバランス

以上、特に指導について大事なポイントについてお話し頂きました。今回、参加された方々がチームに持ち帰り活かしていただけたら幸いです。

尚、上田先生には講演会後の懇親会の間でも質疑応答に応じて頂きましたので以下記載いたします。

Q1 ポジションの適性はあるのか

→日本は高等学校までのポジションが固定化しがちである。しかし、性格にあったポジションにつかせることが大切である。

例) **FW** →一か八かやってやるというような勝負師のような性格
愚直にまじめな者も必要

MF →悪い奴・相手の裏を読み、逆をつこうといつも考えている性格
まじめにカバーしてくれる者も必要

DF →派手さを好まなく、心配性な性格

Q2 小・中・高・大と指導する場が変われば、指導する内容は変わるのか？

→アマチュアの方が、プロより指導が難しい。プロには賞罰が存在するがアマチュアにはない。アマチュアの選手を引っ張っていくのが難しい。

また、年代が下がるほうがさらに難しい。それは、強さを出しづらいからである。小学校は、選手を見抜くことが難しい。中学校は、選手が大人でなく、子どもであるので難しい。高校は、選手が半分大人で半分子どものため指導が難しい。高校では、特に指導者の人間的魅力が求められる。

Q3 選手の県民性はあるのか？

→愛媛から東京に出た時にあると感じた。地域の生活習慣や特性があるのでチームづくりに活かすべきである。

例) 東北 →辛抱強い

南の地域 →爆発力がある

中日本 →良くサッカーを知っている。しかし、軽いプレーをよくする

最後になりましたが、上田亮三郎先生には貴重なお話を頂き、本当にありがとうございました。機会があれば是非またお願いできればと思います。

まとめ：学生幹事 望主唯久馬（立命館大学4年）
事務局 森岡久美子



主催：関西学生サッカー連盟

対象：指導者・選手

参加：30名

会場：阪南大学あべのハルカスキャンパス

懇親会：天王寺都ホテル5階「当麻の間」